

※記載例を参照の上、ご記入ください。

(様式第3号)

企業・団体名(旭松食品株式会社)

SDGs達成に向けた具体的な取組（要件2）【R5.11.30様式改定】

[illegible]

カ テ ゴ リ	チェック項目	取組 レベル	【非該当】 の場合 選択入力	【予定】の 場合 選択入力	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) (【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
環境	【廃棄物】 ・ 廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本			・ 廃棄重量や処理はマニフェストで管理を行っている。 ・ 定期的に現地観察を実施して適切な処理ができていることを確認している。削減の為に計画を策定し進めている。										11.6	12		14.1				
	【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・ 自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本			・ 各事業所での省エネ会議、経営者を含む全社省エネ会議で推進している。省エネ月間を設定し、準備月間には啓発運動を実施している。 ・ エネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握し削減計画を策定し進めている。						7.3						13					
	【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・ 自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本			・ 主要電動機のピークカット、ピークシフト対応を行うことで、デマンドを下げる取り組みを実施している。 ・ 省エネ設備の定期導入で電気使用量を削減させる。削減計画を策定し継続的に進めている。						7.2 7.3				12.4	13.3						
	【有害化学物質】 ・ 法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本			・ 生産での使用、排出はありません。 ・ 産業廃棄物に含まれる有害化学物質につきましては適切な場所で管理、報告を行い、また適切に処分している。 ・ 化学物質管理者講習を受講している。			3.9			6.3				11.6	12.4						
環境	【生物多様性】 ・ 自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本			・ 原料である大豆は、GAP認証農場で栽培した大豆へ変更を進めており、農薬散布の影響を考慮したり、稀少生物の存在するような環境を農場にしないなどの配慮を行っている。						6.6								15			
	【3Rの推進】 ・ リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本			・ 工場で発生する副産物(おから)を資源化している。 ・ 排水処理場で発生する微生物塊は有機質肥料として商品化している。 ・ 各工場でゴミ削減量目標を掲げ活動している。 ・ 包装資材を薄くし、海洋汚染につながるプラスチックに関して削減に取り組んでいる。 ・ フードバンクも使用している。											13		14.1				
	【水の管理】 ・ 水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ			・ 各セクションへの配管に流量計を設置し使用量の把握を実施している。						6.4 6.6											
	【環境マネジメントシステム】 ・ ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ			・ ISO14001(2004)に基づいた環境管理活動を展開 ・ 中部電力冬季節電プログラムに登録 ・ 工場ではデマンドレスポンスの取り組みを独自に行い、時間帯によって電力を抑える活動を行っている。 ・ 省エネ月間を設け、ノー残業デーにはエアコンオフタイマーを利用している。 ・ 太陽光発電システムを天竜、高森の2工場に設置し、今後も増設、新設を予定している。			3.9			6	7				12	13.3	14	15			
	【環境情報開示】 ・ 環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ			・ 地域環境改善活動は年間スケジュールにより定期実施。 ・ 敷地周辺のゴミ拾いを行っており、特に本社周辺については「海と日本プロジェクト」の一環として行っている。この環境活動をHPに開示し公開して行く予定。											12.6						
	【再生可能エネルギーの利用】 ・ 再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ			・ 順次、工場屋根にソーラーパネルを設置し、稼働を始めている。太陽光発電システムは今後も増設、新設を予定している。						7.2						13					
	【天然資源の持続的利用】 ・ 天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ			・ 紙容器、段ボール、コピー用紙などに森林認証紙の採用に取り組んでいる。 ・ 地元で発生した木材を利用したチップ材の原料化を地元行政と調整中。 ・ 地元きのこ業者から菌床を購入し肥料の原料としている。											12.2	13	14	15			

	チェック項目	取組 レベル	【非該当】 の場合 選択入力	【予定】の 場合 選択入力	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載) (【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
																							
公正な 事業 慣行	【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本			・旭松グループ行動基準に記載し、従業員に周知している。																	16 16.5	
	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本			・旭松グループ行動基準に記載し、従業員に周知している。																	16	
	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本			・特許、商標等の知的財産権を取得し管理している。 商品開発時には他社の知的財産を侵害しないように、 チェックを行っている。								8.2 8.3	9									
	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本			・社内規程に明記し、遵守している。																	16	
	【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレン ジ			・紛争鉱物の取扱いはありません。																	16	
	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレン ジ			・調達先との定期商談、品質監査等における情報を通して評価確認を実施している。 ・原料大豆には、GAP認証圃場で栽培した大豆の使用に取り組んでいる。				5				8		10		12	13	14	15	16	17	
	【パートナーシップ構築宣言】(R5.9.5～追加) ・中小企業庁等が推進する「パートナーシップ構築宣言」を作成・公表している	基本			・作成し、公表している。			3					8	9	10								17
	製品・ サー ビス	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本			・FSSC22000の認証を取得し、製品の安全性の確保に努めている。FSSC22000の最新のVersionに対応できるよう構築している。			3.9									12.4					
【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している		基本			・全工場FSSC22000の認証を取得し、生産を行っている。									9									
【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる		チャレン ジ			・包材を薄くし、プラスチック包材の使用を抑えた商品仕様への変更(16%減)。 ・紙製品は森林認証材への変更に取り組んでいる。 ・カップ商品の蓋をプラスチックから紙へ変更している。 ・凍豆腐の包材見直し、加工食品の紙蓋化等により、年間換算で2510kgのプラスチック削減を行っている。							6					12	13	14	15			
【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる		チャレン ジ			・噛むこと、飲み込む事が難しい方への介護食生産を行っており、新たな商品提案をしている。 ・新商品の減塩化に取り組んでいる。 例)TOPURO 食塩相当量1g以下	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
社会 地域 貢献・		【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本			・地元イベント参加、商品提供を積極的に実施している。 ・つぶほまれ大豆を地元小学校と栽培している。 ・地域、各種団体からの依頼を受け、凍豆腐の話をしている。				4					9		11	12		14	15		17
	【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレン ジ			【寄付】赤十字、赤い羽根、信州大学学生基金、チェルノブイリ連帯基金、フードバンク信州、信州子ども食堂ネットワーク 【ボランティア】事業所周辺清掃、献血 【特記】事業活動自体が社会貢献活動、健康増進、減塩 ※ 南信州民俗芸能パートナー企業へ登録(長野県) 【農福連携】就労支援事業所の皆様と大豆栽培				4							11			14	15		17	
	【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレン ジ			・つぶほまれ大豆の栽培を行い、自社の製品だけでなく、地元のみそや醤油メーカーにも加工してもらい、ギフトなどとして地産地消を実現している。								8	9		11	12	13					
6	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本			(経営理念)朝礼等で唱和し、各事業所に掲示している。 (経営目標)取締役会、経営会議から職制を通じて経営方針の周知及びそれに沿った各部門方針を作成している。 社内報などで周知している。								8	9								17	

[illegible]

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組		具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

【記載留意事項】

- ・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されていることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取組む予定のものであっても、その取組を「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前の【予定】を選択入力してください。）
- ・【非該当】欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合に選択入力し、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。
- ・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載するほか、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、できるだけ、その旨を併せて記載してください。
（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、女性の活躍推進企業知事表彰、男女共同参画推進県民会議表彰、障がい者雇用優良事業所等表彰、信州豊かな環境づくり県民会議表彰、長野県技能評価認定制度、NAGANOものづくりエクセレンス認定、信州福祉事業所認証・評価制度、信州リサイクル製品認定制度、信州の環境にやさしい農産物認証制度、長野県原産地呼称管理制度、信州おもてなし大賞、えるぼし認定、循環型社会形成推進功労者表彰、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）

- この「要件2」は、ISO26000（※1）、RBA（Responsible Business Alliance）（※2）行動規範等を参考に、非財務情報（SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項）について整理し作成
- 「SDGsとの関連性」については、各項目について、169のターゲットに直接的に当てはまる場合は**黒字**、間接的（結果として）に寄与する17ゴールが当てはまる場合は、**赤字**で番号を記載
- 企業が県へ申請する際には、チェック欄へのチェックとあわせ、「具体的な取組」へ取組内容を記載
 - ※1…組織の社会的責任に関する国際規格
 - ※2…労働環境、製造プロセスの環境負荷に対する責任を持っていることを確認するための規定